

令和5年度第2回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	令和5年10月31日（火）午後2時から午後3時30分まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：健康福祉部参事、高齢者福祉課長、専門員兼地域支援係長、担当主事補
場所	瀬戸市文化センター 21会議室
内容	1 開会 - 事務局より本日の会議について説明 （説明内容） 昨年度の政策提言の解決に向けて、地域の居場所づくりと担い手支援について検討をしている。本日の会議では今まで委員の皆様からいただいた意見を基に、地域課題について検討を深め、次回の政策提言につなげていきたい。 - 委員長より会議の前にご挨拶 年度末の政策提言に向けて会議を進めていく。大きなテーマは居場所づくりと担い手支援である。居場所や担い手に関する取り組みが多く行われていることはこれまでの会議で把握できているため、どのようにつなげていくかを検討していきたい。自由に忌憚なく議論してほしい。 2 議事 （1）生活支援コーディネーター活動実績報告 【1～5ページ】を基に生活支援コーディネーターより説明。 （第一層生活支援コーディネーター） 地域福祉パートナーシップ事業者認定制度を活用して、新たに5社を認定した。地域貢献活動として健康セミナー、栄養セミナー、居場所の提供などで協力していただいている。今年の6月にはパートナーシップ事業者同士の交流会も実施した。 また、8月には大橋運輸と瀬戸市役所と共催し、栄養の日セミナーを開催した。大橋運輸、瀬戸市、社会福祉協議会との三者協定を締結し、さらなる連携を深めていく。三者で協力し11月には人生会議のセミナーを実施する予定である。 地域包括支援センターへの協力としては地域ケア会議の協力を行っているが、支えあい会議まで発展しないのが課題である。地域包括支援センター中央東では地域ケア会議であがった地域住民の声から居場所づくりに成功した。 地域の居場所の開設に向けて、社会福祉協議会として居場所の開設支援を行っており、現在「よりどころ」を新規3箇所含めて53カ所認定している。また、パートナーシップ事業者である株式会社月昇天からは葬儀の少ない友引の日などに会議室を貸し出していただけることになった。 個人のニーズから地域資源につなげる活動も行っており、相談から本人の異変に気づき、地域包括支援センターにつなげたり、障がい者の方から服のリメイク依頼がありマッチング支援を行ったりした。 また、Instagramでの周知活動も行っており、フォロワーは500人ほどとなっている。第2層生活支援コーディネーターの活動もアップロードしているの

で、ぜひ見て頂ければと思う。

今後の取り組みについては、地域課題の解決に向けて、地域福祉パートナーシップ事業者認定制度を活かし、企業のノウハウを活用していきたい。また、福祉ボランティアフェスティバルでパートナーシップ事業者9社が参加していただけることになった。色々な団体の交流が生まれるのではないかなと思う。

次に、よりどころをより増やしていくために、地域の話聞くことや、知っていただくことから進めていきたい。

地域ケア会議に関しても、住民主体での支援であることを忘れずに、生活支援コーディネーターでサポートしていきたい。

(第2層生活支援コーディネーター)

担当圏域である川西町で「川西倶楽部」が10月より始まった。元々よりどころとして月1回やっていたが、「もっと集まりたい、男性も集まりたい」という住民の声を受けて、準備を進めてきた。

現在は週に1回開催しており、毎回12～13人集まっている。男性が6名ほど参加しており、麻雀を楽しんでいる。女性はお手玉をしたりしている。公園内で実施しているため、グランドゴルフを楽しむこともできる。夕方には小学生が公園に遊びにくるため、一緒に卓球したり、野球、サッカーをしたりしている。地域の集いの場としてすでに形ができつつあると判断している。多世代のつながりも求められてきているため、今後の活動でも意識していきたい。

個別マッチングの事例として、50歳男性で生まれつき障害があり、車いすで生活している方の例を紹介する。男性は手元の感覚が鈍く、ボタンを留めるのが難しいことに悩んでいたため、ボランティアセンターに服のリメイク依頼を行った。裁縫の得意な方にお手伝いいただき、ボタンをファスナーやマジックテープに変更してくださった。男性はできあがった衣類を見て喜び、感謝の手紙を書いたところ、受け取ったボランティアの方は涙を流して喜ばれた。手伝った側の生きがいにつながったのではないかな。特技や趣味はみんなが持っている。今回のような形で実現できたらよいと思う。

(第2層生活支援コーディネーター)

古瀬戸連区での地域ケア会議で地域住民がやりたいこととして3つ挙がった。

①みんなで集まって話したい ②花うえや掃除をしたい ③ラジオ体操をしたい

まずは気軽にできるラジオ体操を窯垣の小径で実施することとなり、0のつく日に朝7時から開催している。ラジオ体操のチラシは生活支援コーディネーターが作成した。地域の主要な会議でも周知し、これまでの開催では約10人が参加しており、居場所ができ始めていると感じている。ラジオ体操の取り組みを周知する中で自分の地域でもやりたいという声もあった。

(瀬戸旭医師会)

川西倶楽部の男性参加者が多いのはよい。麻雀は4人しかできないが他の人はど

うしているのか。

(第2層生活支援コーディネーター)

他の人は近くで座って待っている。長く待つことがないようにかわるがわる利用している。

(瀬戸旭医師会)

認知症の方などの対応はどのように行っているのか？

(第2層生活支援コーディネーター)

昔から知っている人同士だから小さな変化にも気づけるのではないか。

(委員長)

地域の垣根を越えて活動を紹介しているのがよかった。男性が集まっており、うまく運営していると感じている。企業のパートナーシップ制度も順調に増えている。各団体でもご紹介していただければさらに広がっていくと思う。

(2) 地域の「居場所づくり」について

(第2層生活支援コーディネーター)

令和元年から実施しているよりどこかを5年経験したなかで必要だと思ったものを紹介する。

まずは場所があることが大切である。よりどころは53カ所あり、地域の集会所が多い。あとは公民館などの公共施設、シルバー人材センターでも場所を借りている。個人宅の一室で実施しているケースもあり、2世帯住宅だが、子が家を出たことなどであまった部屋で実施する方もいる。最近は、空き家を使えないかという相談をいただいている。他にも民間企業が実施するたい焼き店の定休日やウィローふたばのスペースを借りたりしている。

次に地域活動を推進する人が必要である。地域みんなで盛り上げていくという考えの人が増えていかないと継続が難しい。企業の協力も最近増えてきている。

次に居場所を支援する人がいること。継続するのは負担が大きく、手伝える人は必要になってくる。地域の専門職に協力していただいている地域もある。

最後に、必要性が住民に伝わっている必要があり、これが一番大切である。なぜやるのか、なにが問題解決につながるのか周知する必要がある。

(瀬戸市シルバー人材センター)

地域ごとに様々な地域課題に悩んでいると思うが他の市町村の情報を手に入れるような悩み相談会はあるのか？

(第2層生活支援コーディネーター)

地域によって特性があり、一概に悩みを解決するのは難しい。地域住民の困りごとに基づいて個別に実施していきたい。

(瀬戸市シルバー人材センター)

地域課題の解決方法がまとまった冊子があれば、わかりやすい。

(委員長)

地域の困りごとを相談する場をどうやってつくっていくのか。気軽によれる場所が近くにあることが大事。よりどころを作っていくことが相談する場を見つけるチャンスになるのではないかな。

(基幹型地域包括支援センター)

居場所の必要性が住民に伝わっていることが大事である。せとらカフェでは東日本大震災で地域のつながりの必要性を感じたことで居場所を実施しているところがある。地域で共通の認識を持っているため、毎回20、30人ほど集まる。

また、地域ケア会議に関しては、ただやっているだけになってしまっており、困っている人の声をちゃんとくみ取って、実施する必要がある。

(瀬戸地域福祉を考える会まごころ)

地域ケア会議をやってほしいと思ったときにどこにどうやって相談すればよいのか。

(基幹型地域包括支援センター)

担当の地域包括支援センターに相談してほしい。

(瀬戸地域福祉を考える会まごころ)

よりどころの一覧表がほしい。

(第2層生活支援コーディネーター)

ホームページにも掲載しており、お渡しできます。

(瀬戸地域福祉を考える会まごころ)

居場所があっても、居場所まで行けない人がたくさんいる。地域で足りないものが何かを検討していくべきである。

(第2層生活支援コーディネーター)

よりどころの数には地域差がある。居場所を増やすことで移動の問題を解決できるかもしれない。

(委員長)

よりどころマップを見ると居場所がなく空白の地域がある。市民が歩いて行ける範囲に居場所を作っていくこと、居場所の情報を普及していくことについて政策提言につなげていきたい。

(3) 他市の「居場所づくり」への支援状況について

他市町におけるマッチング支援や金銭的支援などを調べた。結果は7ページの通り。

(基幹型地域包括支援センター)

先日、長久手市に見学にいった。高齢者と子供と一緒に集まれる通いの場が小学校区ごとにある。瀬戸市の学校にも児童クラブがあるので、高齢者を絡めたりできないか。高齢者と子供が交わる仕組みづくりを行っていくことが望まれる。

(委員長)

あるデータでは、長久手市は住みやすいまち全国2位であるが、短期間に同じ世代の人が多く入ってきているため、その世代が一度に高齢化することへの危機感もあると思う。地域力では長久手市が瀬戸市に見学にきた。早めに手を打っておくための試みとして多世代交流を実施していると思う。

(地区社協連絡協議会)

地区社協が担い手不足に困っている。高齢化が進んでいるが主となっているメンバーがどれくらい高齢化しているか把握しているのか。敬老会がなくなったこと、コロナ禍で事業が減ったことで役員同士とのつながりも減った。70歳まで働く時代でその後に地域活動を始めるとなると、担い手の高齢化はすすんでいく。

(事務局)

担い手が高齢化しているという現状は把握しているが、具体的にどれほど高齢化しているかまでは把握できていない。地域力は立ち上げのメンバーが10年前から変わらずやられている地域が多い。新しい方を入れていく手法として聞いたことがあるのは、PTAを経験している方を勧誘することなどがある。

(地区社協連絡協議会)

PTAから地域活動にかかわらないという宣言が出た。

(瀬戸市自治連合会)

PTAが地域活動にかかわらないという流れは全市的に行われている。

(瀬戸地域福祉を考える会まごころ)

来年の2月に元気サポーター養成講座を開催するが、毎年2、3人は継続して参加してくれる。養成講座を必要としている人に情報を届ける仕組みづくりができていない。

地域の企業と連携する「プロボノ」という動きが広がってきている。地域企業の従業員に協力してもらうことはできないのか。

(基幹型地域包括支援センター)

企業側のメリットを提示することが必要。

(瀬戸地域福祉を考える会まごころ)

地域貢献だけでも企業にとってはプラスのイメージになる。

また、パートナーシップ事業所との連携はどうやって行えばよいのか。

(第2層生活支援コーディネーター)

企業側にできることを提示していただき、連携可能な団体とマッチングしている。企業のノウハウで解決できる部分で協力してもらっているが、大秋氏がおっしゃるような労働力として提供してくれるところは今のところない。福祉ボランティアフェスティバルにて、様々な団体の活動紹介コーナーがあり、企業も参加してくれているため、企業に地域での活動を知っていただく機会になると思う。その中で、新たな協力方法が出てくる可能性はあると考えている。

(瀬戸地域福祉を考える会まごころ)

企業との協力は、アプローチ次第でうまくいく可能性はある。東明地区で行った移動支援事業では、塩草町に住む名古屋大学の教授からお声がけいただき、講座を行っていただいた。地域の中で依頼していくことができるとよい。

(委員長)

プロボノに関しては、企業の人事評価の項目にしている企業がある。福祉ボランティアフェスティバルは企業とボランティアが交流できるチャンスであるため、まずはボランティアフェスティバルに参加するように各団体に促してほしい。

大学では社会連携に関するセクションの長をしているが、多くの団体から学生の協力を求める声をいただく。大変ありがたいお話であるが、学生も新規で何か実行していくのは難しく、行っている活動の延長でやれるとスムーズに連携できる。各団体が行っている活動を知るためにも、ボランティアフェスティバルには出席するとよいのではないかな。

(瀬戸市自治連合会)

19日市民総出の防災訓練がある。ボランティアフェスティバルの日程がかぶっているので、市内でのイベントは日程をずらせるとよい。

(第2層生活支援コーディネーター)

来年度以降は日程をずらせるように調整を終えている。

(4) 各団体活動状況事前アンケート結果について

事務局より8, 9ページについて説明。

(瀬戸地域福祉を考える会まごころ)

高齢者福祉課と共同で常設の居場所を作っている。コロナでカラオケを実施していなかったが9月ごろから再開した。ボランティアとして3人の高齢者が参加してくれている。送迎も実施しており、福祉運送を無料で実施している。また、菱野団地は住民バスがあるため、バスの時間に合わせて講座を開催している。認知症カフェを実施したり、地域力と協力してボッチャの大会を実施したりして居場所をつくっている。

住民のちょっとした課題への対応が人材不足だと困難だと感じている。

(地区社協連絡協議会)

それぞれの地域で同じような活動をしているが、どこも人材不足に悩んでいる。新しい人が入ってこない、新しい事業を実施できない。様々な地域活動を同じ人が担っているという課題がある。

(委員長)

高齢者や子育てへの支援をやっていない地域力はまずない。横のつながりでどのように人材を確保していくか。

PTAが協力できないというのもPTAが冷たいわけではなく、学校の働き方改革の影響が出ているのだと思う。

	瀬戸市では居場所をいかに知っていただくか、人材の確保、居場所の創出の3つが大きな課題となっている。 (民生委員児童委員協議会) 人材不足が大きな課題。人材を発掘するのが一番大事だという意識を地域で広めていく。 (副委員長) パートナーシップを瀬戸市で10社結んでいるのは努力の成果だと思う。地域の居場所は住民の方へ知っていただくことが大事。介護事業所なので困難事例の人に話を聞くと本人には問題意識がないケースもある。問題が顕著化する前に対応する必要がある、自身で発信することが難しい人へのアプローチを検討する。 企業もこの範囲までなら協力できるという専門的なエリアがあると思う。簡単に協力できることも多くある。車いすの人がいたらエレベーターのボタンを押してあげるだけでもボランティアであり、難しく考えすぎることなく検討していきたい。 (委員長) 各委員は、各団体に帰っていただいた際に今回の話しあった内容について情報交換をしていただけるとありがたい。
3	その他 事務局より、次回の協議体を2月頃に予定していることをお伝えした。
4	閉会